



ずくま！

みんなでつくる ずっといいまち くまとりちゅうがっこう

第5号 2026.9.14

ESDとは…

Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育) の略語。
さまざまな現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、将来にわたって持続可能な社会の実現をめざす、「持続可能な社会」の創り手を育む教育のことです。



【ESD関連用語の紹介】

ウェルビーイング

＝ウェルビーイング(Well-being)は、well(よい)とbeing(状態)からなる言葉。「体や心、生活が満たされて、“幸せだ”と実感できる状態」という意味。SDGsの3番目の「すべての人に健康と福祉を」は「ウェルビーイング」の考え方そのもので、ウェルビーイングの実現は、世界共通の目標として注目されている。キャリアを考える上でも欠かすことのできない概念です。

「社会を明るくする運動」

＝法務省が主唱する、犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える全国運動。すべての国民が参加し、安全で安心な明るい地域社会の実現をめざします。

2年生 学校の外でキャリア体験学習！

9月2・3日の2日間、2年生がキャリア体験学習を行いました。体験活動として自分の将来の職業や卒業後の進路について考えることをねらいとし、大学、専門学校、町内の施設など、大阪府下の各所に分かれて、学校から出て専門的な学習をしました。実社会との出会いから、仕事や世の中への関心をのばし、責任感や社会で必要な力の基礎を身につけることができました。きっと毎日の授業の中では得られない、特別な発見や気づきがあったことでしょう。

1、3年生にも、自分の生き方や仕事について考える場面があると思います。みなさん一人ひとり全員が、大切な「社会のつくり手」です。人生をよく生きられるよう、自分自身を見つめて、たくさんのことを学んでいきましょうね。



地域とともに「社会を明るくする運動」

同じ9月2日(水)に、1年生では「社明弁論大会」がありました。夏休みに全員が「社会を明るくする作文」を書き、当日は各クラスの代表者が保護司さんなど地域の方々の前で、作文を発表しました。代表生徒のみなさんは、友だちに支えてもらった経験や、高齢の家族と接する中で感じたこと、いじめをなくしたい思いなど、実体験にもとづく、思いのこもった作品を披露しました。来校された地域の方々もあたたかく聞いて下さり、学校と地域がつながって、誰もが明るく過ごせるまちをつくるための大切な時間になりました。明日からはオープンスクール(17日まで)です。たくさんの保護者の方に来校いただき、学校と地域が一緒になって、人づくり・まちづくりをしていただければいいと感じています。たくさんの大人がみなさんのことを応援してくれています。「ずっといいまちくまとり」を創っていくのは、君たちです！

おまけ ユネスコスクールネットワーク研修会に参加してきました！

先生たちは、人権や授業づくりなど、夏休みにたくさんの研修をしています。私も、ユネスコスクールネットワーク・コーディネーター会議に出席し、研修を受けて学んできました。講師の先生のお話から「ユネスコスクール」の意義を再確認できる充実した研修でした。お話の中で印象的だったのは、対等な「学び合い」が何より重要であるということ。そしてもう一つ、ユネスコスクールは決して“エリート校”のためのネットワークではないということです。ユネスコスクールの認定校は、私立学校や中高一貫校が多いですが、熊取中学校のような公立中学校が「誰一人取り残さない」というユネスコの理念を掲げた教育を実践することによって、とても大きな意味があると改めて実感しました。みなさん全員と一緒に、みなさん全員のために、この熊中をよりよくしていきたいという思いを、さらに強くすることができました！

